

4月22日(月)

良い種

聖書朗読 マタイ 13:24~35

だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。 マタイ 13:30

C.S.ルイスは、その著書『偉大なる奇跡』において次のように述べています。すなわち、「自分が犯した罪に目を留めない人々は、ひたすら他の人々が犯した罪に目を留め、そうすることによって自分自身の罪深さから目をそらしてしまっている」と述べています。

私たちが生きるこんにちの文化において、他の人々の罪に目を留めないということは、かなり難しいこととも言えましょう。なぜなら、(例えば)テレビの放送や広告の多くは、神様よりも「この世的な楽しみ」を第一とするようなものが多く、私は見ている不快ささえ覚える時があるからです。「この世の誘惑」(参照、黙示録2:20)ということについて、考えさせられます。

こうした「この世の誘惑」や「この世にある罪」は、確かに大きな問題ではあります。しかしながら、本日の聖書朗読箇所「毒麦のたとえ」において、イエス様が言っておられることは、「他の人々が犯す罪にどう対処すべきか」ということではなく、「福音を宣べ伝えなさい」ということだと思えます。キリスト者に与えられた使命は、「毒麦を抜くこと」ではなく、「良い種」(福音の種)を蒔くことなのです。

こんにち、多くの人々が神様から離れてしまっていることを、非常に残念に感じます。エレミヤの時代に、人々は、悪を行うことを喜びとしてしまっていたようですが、こんにちの状況もそれと似ているかもしれません。そして、どの時代においても、罪はその結果(究極的には永遠の滅びという結果)をもたらします。しかしながら、私たちの役割は、罪を犯している人々を裁くことではありません。(「毒麦のたとえ」のように)毒麦を抜くことは、神様におゆだねし、私たちは福音の種を蒔くことにいそしみましょう。

讃美歌 II 編 26

祈り 神様、他の人々を私たちが裁くことのないよう、お導き下さい。私たちが他者に対し愛を持って接し、あなたの愛を指し示すことが出来ますようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

テキサス州 アマリロ / ジーン・シェルブーン

今日のカ

2024年4月22日~4月28日

翻訳 伊藤 若菜

編集 相川 忠義

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳者・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

4月23日(火)

二種類 の ニュース

聖書朗読 マタイ 17:22~23

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。ピリピ 4:4~5

アメリカでは、普段の会話の中で「良いニュースと悪いニュース、どちらを先に聞きたい？」と尋ねてから、話を切り出すことがしばしばあります。ちなみに、私は、悪いニュースを先に聞いた方が、良いニュースの喜びが増すように感じています(ですから、悪いニュースを先に聞きます)。

聖書朗読箇所、イエス様は弟子たちに、誰かがイエス様を裏切り、イエス様は殺されるが、三日後に蘇られることを伝えました。マルコの記録では、弟子たちは主が言われたことを理解出来ず、質問することも恐れたとあります(マルコ 9:32)。また、マタイ17章23節を見ますと、「弟子たちは非常に悲しんだ」とあります。ですが、ちょっと考えてみて下さい。イエス様は三日後に蘇るとも言われたのです。どうやら弟子たちは、「悪いニュース」しか耳に入らなかったようです。喜ぶべき「良いニュース(知らせ)」もありましたのに、弟子たちは、「悪いニュース(知らせ)」にのみ注目して、嘆き悲しんでしまったのです。

こんにち私たちは、聖書を通して、主の十字架の出来事のみならず、復活の出来事についても知らされています。主が裏切られ、十字架の上で苦しまれた箇所を読む時私たちは嘆きます。私たちの罪のためにイエス様が苦しまれたことを知っているからです。しかし、私たちは空(から)になったお墓を見て喜びにあふれた女性たちのことも知っています。いつか私たちも復活のイエス様にお会いするのです。そんな、この上ない良いニュース(知らせ)が私たちには与えられているのです。

讚美歌 520

祈り 天なる神様、悪いニュースで心が重くなる時も、いつかイエス様にお会い出来る良いニュースに心を向けて、喜び見出すことが出来ますように。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

ニューメキシコ州 ホップズ / クリスティーン・アダムス

4月24日(水)

重荷ではなく喜びに満ちた信仰

聖書朗読 マタイ 23:1~12

だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。マタイ 23:12

本日の聖書朗読箇所は、イエス様が「パリサイ人に対する七つのわざわい」について語られる直前の箇所です。そこで語られている主イエスの言葉は、パリサイ人たちの教えや言動をはっきりと非難する言葉でした。パリサイ人の高慢な思いに満ちた教えは、信仰を律法主義にすり替えてしまい、信仰を人々の重荷にしてしまっていたからです。

私たちクリスチャンの言動にも、注意が必要と言えましょう。私たちの言動は、他の人たちにとっての励ましとなっているのでしょうか。信仰を深めるために役立っているのでしょうか。それとも、他の人々にとって重荷や苦痛を与えるようなものになってはいませんか。私たちの捧げる礼拝はどうでしょうか。私たちの礼拝は、礼拝者が慰められ、励まされ、信仰を深める時となっていますでしょうか。ともすると、礼拝も、負担や罪悪感だけに悩まされる時間になってしまう場合もあるのではないのでしょうか。

礼拝をはじめとして、信仰生活において「クリスチャンの義務をどれだけ果たしたか」ということに重きが置かれるようになると、そこに芽生えるものは「高慢な思い」です。そして、信仰生活は平安ではなく重荷に満ちたものとなってしまいます。ですから、私たちは(自分自身が何をしたか)ではなく、まず神様を見上げ、神様から注がれている恵みを感謝して喜びましょう。そうする時、私たちは、神様を讃える喜びに満ちた礼拝を捧げることが出来、他の人たちにイエス様に従うことの素晴らしさを伝えることが出来るのです。

讚美歌 517

祈り 神様、日々の生活の中で、あなたの愛とあなたへの信仰を他の人々に証しすることが出来ますようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

ミシシッピ州 オリーブブランチ / エディー・ルイス

4月25日(木)

招いておられる神

聖書朗読 マタイ 23:36~46

イエスは彼らに言われた。「わたしを遣わした方のみこころを行い、そのみわざを成し遂げることが、私の食物です。ヨハネ4:34

主イエスの宣教の目的は、最初からはっきりしていて、人々の救いのために十字架にお架かりになることでした。ですから、主の地上での生涯が終わりに近づくと「イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ」たのです(ルカ9:51)。そして、十字架の直前の出来事については、マタイ伝26章~27章に記されています。

主の親しい弟子たちは、「どんなことがあってもイエス様について行きます」と豪語していましたが、そうならないことを主はご存知でした。そして主イエスは、悲しみ、悩み、父なる神に心から叫び、「杯を過ぎ去らせてください」と願われました。しかしながら、主は続けて、「わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください」と祈られたのです(マタイ26:39)。

この、主イエスによる「ゲッセマネの祈り」において、主は、「神様に従っていくこととは、どのようなことなのか」をお示しになったとも言えましょう。それは、単に「(悪から離れて)良い生き方をする」ということではなく、神様の御心(みこころ)を求め、御心に従おうとすることです。ですから、「私たち自身の意見」や「好み」と神の御心が一致しない場合には、神の御心に従う必要があるのです。そのためには、自分を最優先しようとする高慢な思いを捨てることも必要です。

この世においては、御心よりも自分を最優先したくなる誘惑がいつもあります。しかし、主イエスは、私たちにとって何が最善であるかを私たち以上に知っておられる神に従うよう招いておられます。この神様に、お従いし、福音の恵みに生きる者とさせて頂きましょう。

讃美歌 333

祈り 御心を求め、御心に従うことが出来るようお導き下さい。神様を第一とさせて下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

ミズーリ州 セントチャールズ / ジェリー&リン・ジョーンズ

4月26日(金)

神によって変えて頂く

聖書朗読 マタイ 26:69~75

私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。ヤコブ 1:2

ある時私たちは、バイブルスタディのために集まる場所を探していました。すると、友人が親切にも、彼女の家の庭を場所として提供してくれました。その庭は、大きい木製のテーブルが設置してある素敵な庭でした。しかし、その冬にひどい嵐が起り、強風や雪のために木がなぎ倒されるなどの被害がありました。残念なことに、その庭のテーブルも壊れてしまいました。私は、そのテーブルはもう使い物にならないと諦めて、ゴミとして処分するつもりでした。

ところが、驚いたことに、友人のお父様が、そのテーブルの壊れた脚の部分をカットして、素敵なコーヒーテーブルへと変身させてくれたのです。この出来事は、私に次のことを思い起こさせました。すなわち、どんなに状況であっても、その状況がさらに悪化していくのも、逆に良きものへ変化していくのも、私たちの(その状況に対する)私たちの対応次第なのだなあ、ということです。

ペテロは、イエス様を三度も否認し、その否認を大変後悔して激しく泣きました。ですが、その後ペテロはどうなりましたでしょうか。ヨハネ伝を見ると、その後のペテロについての記録があります。

さらに、(使徒の働きを見ると)ペテロは力強い説教さえ行い、その結果三千人もの人々がバプテスマされました。こうして、ペテロは、初代教会において大変重要な役割を果たすことになるのです。苦しみの中にある信者たちを励まし、希望を与える手紙も書きました。ペテロはイエス様の愛により、内側から変えられたのです。打ちひしがれたままではなかったのです。私たちも、失敗や何らかの難しい状況などにより、押しつぶされそうになってしまうことがあるかもしれませんが、そんな私たちでも、神様の愛により、私たちは内側から変えられ、再び立ち上がることが出来るのです。

讃美歌 514

祈り 困難と直面した際、喜びを見つけるのが難しいことがあります。そのような時こそ、あなたを見上げることが出来ますように。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

オクラホマ州 エドモンド / サリー・ジェーン・シャンク

4月27日(土)

どちらを選ぶか

聖書朗読 マタイ 27:11~26

見よ。私は、確かにきょう、あなたの前にいのちを幸い、死とわざわいを置く。

申命記 30:15

人生は、選択肢で満ちています。イスラエル人たちの出エジプトの旅路において、神に信頼して前進するという選択肢と、旅をやめてしまうという選択肢とがあったように、私たちの人生も、神様に従うのかそれともそれをやめてしまうのかという選択で満ちているように思います。もちろん私たちは、日々そうした「選択」を意識的に(深く考えて)行っている訳ではないかもしれませんが、しかし、私たちが日々の生活でしている行動や判断について、立ち止まって考えてみることも大切です。私たちの行動や判断は、どのような基準に基づいているのでしょうか。そして、私たちの行動や判断は、どんな結果をもたらしているのでしょうか。私たちの行動や判断は、私たちに本当の喜びをもたらしているのでしょうか。それとも、私たちをかえって苦しめてはいないでしょうか。

ピラトは群衆に、バラバとイエス様のどちらを釈放してほしいかと尋ねましたが、群衆の答えはバラバにとって予想外なものでした。群衆は、救い主であるイエス様を選ばずに、バラバを選んだからです。なぜ群衆はバラバを選んだのでしょうか。それは、群衆の霊的な目が閉ざされていて、バラバを選んだ方が得策だと、群衆が判断してしまったからです。その時の群衆の目には、そう映ったのです。

物事は見た目と異なることがよくあります。神様の恵みが見えにくくなってしまいう時があります。ですから私たちは、心の目や耳をよく開いておく必要があるのです。この地上的世界には、私たちを惑わすような考え方が、残念ながらあります。それらに惑わされるのではなく、まことのいのちへと私たちを導いて下さるイエス様に従う生き方を選びましょう。

讃美歌 512

祈り 神様、イエス様に従う道を選べるようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

テネシー州 ブレントウッド／アール・ラベンダー

4月28日(日)

耳を傾ける

聖書朗読 マルコ 4:1~9

そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」 マルコ 4:9

私たちは、日々様々な音や言葉を聞いています。それらの音や言葉の中には、思い出深いものもあることでしょう。例えば、結婚式での誓いの言葉は、心に残るものでしょう。或いは、お子さんの産声もそうでしょう。ラジオから流れてきたあなた音楽が心に残ることもありましょう。また、お子さんやお孫さんが野球をするなら、ヒットを打った時のバットの音も印象深く心に残るかもしれません。そして、愛する人がバプテスマされる際の、信仰告白の言葉は、誰にとっても嬉しく心に残るのではないのでしょうか。

本日の聖書朗読箇所では、「人は、まず(主イエスに)耳を傾け、その上で主にお従いする必要がある」ということが教えられていると思います。私たちは、ともすると耳を閉ざし、聞く姿勢を失っている場合があります。しかし、私たちが耳を澄ませ、「神様は愛であること、イエス様が救いのために来られ犠牲になれたこと、私たちの罪が赦されたこと、そしてイエス様が甦られたこと」という真理に耳を傾ける時、私たちは霊的に真に豊かな者とされていくのです。ですから、心の耳をよく澄ませ、神の言葉に耳を傾けましょう。

私たちは、私たちを通して神様を証しするよう召されています。そのためにも、まずはイエス様に耳を傾けたいと思います。みことばに耳を傾け、傾け続ける時、私たちは変えられ、神を証しする器として整えられていくのです。意識して耳を傾けましょう!

讃美歌 187

祈り 神様、あなたのみことばに感謝します。あなたのみことばに耳を傾けられますよう、私たちを助け導いてください。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

サウスキャロライナ州 コロンビア／ブレンダ・ヤング